

緊急幹事会報告（1月28日開催）

昭和50年1月22日以降阿蘇付近に発生した地震は、震源が火山地域ということを考慮し、観測態勢ならびに一般への対応および総合判断について地震予知連絡会と打合せのうえ、本連絡会で検討することとした。しかし、本会議は2月13日に開催するので、それまでの措置として、とり急ぎ幹事会を開き検討することとし、下記のとおり開催された。

日時：昭和50年1月28日（火）12:30～13:30

場所：日本学術会議

出席者：永田、下鶴、横山、久保寺、吉野（国土庁）、大山（文部省）、末広

席上、久保寺・末広幹事から、今回の地震に対する観測体制・地震活動および火山活動との関連などについて報告があり、検討の結果、下記の統一見解を発表することとし、気象庁記者室において、末広幹事が報道機関に対しレクチャーを行なった（15:30～15:50）。

〔統一見解〕

火山噴火予知連絡会

阿蘇付近の地震について

阿蘇カルデラ北東外側（一の宮町北部）に1月22日午後震度4の地震が発生し、23日の震度5の地震を最高にその前後に約60回の有感地震が発生した。

その後は1月28日現在まで地震の数は次第に減少する傾向にある。しかし、今後の見通しを予測するには引き続き地震および火山活動の推移を監視する必要があるので、現在もなお気象庁・京大が協力して強化観測を継続している。

現在のところこの地震活動は阿蘇山の火山活動に直接に結びつく兆候は現われていない。

以上